

令和7年度 医師確保対策事業について

令和7年3月24日(月)
地域医療対策協議会

臨床研修医確保について

拡

(1) 県外大型フェア出展

- ・県外で開催される大型合同説明会に大分県病院群として出展し、多くの医学生向けにPRをしていく
- ・これまでは、県病院群としての参加は、3月の大型フェアのみ(H23~H30レジナビ、R5~マイナビ)
- ・R7より年2回の参加とする
例:3月/マイナビフェア、5月/レジナビフェア

(メリット)

- ✓ 時期や運営会社により対象の学年やイベントの特色が異なり、幅広い層の医学生に情報提供できる
- ✓ 自県からの参加者に対しても、「県で一体となって頑張っている」ことをPRできる
- ✓ 大分県病院群として出展することにより、県内病院間でのブース回遊が促され、集客の相乗効果が期待できる

(2) 臨床研修病院合同説明会

- ・県内の臨床研修病院が一同に会し、それぞれの病院プレゼンテーション、病院ブースごとの説明を実施
- ・H17から毎年実施(R2のみコロナにより中止)
- ・県外からの参加者には旅費支援を行う
- ・参加者獲得のため、医学生へ直接発信できる民間会社を通じた周知を行う

<これまでの実績(参加人数)>

		R6	R5	R4	R3
場所		県内	県内	大学	大学
参加者	県内	39	28	62	57
	県外	15	4	6	0

(3) 臨床研修病院見学ツアー

- ・県外医学生を対象に、夏休みに2日間で3カ所の臨床研修病院を見学するツアーを実施
- ・看護師、薬剤師も合わせて実施
- ・R6はそれぞれの時間帯から1病院を選ぶセミオーダー制
- ・R7は大分大学医学部の参加も検討

1日目AM

アルメイダ病院
大学病院
厚生連鶴見病院
(上記のうち1病院)

1日目PM

新別府病院
大分赤十字病院
大分中村病院
(上記のうち1病院)

2日目AM

中津市民病院
別府医療センター
大分県立病院
(上記のうち1病院)

(4) 臨床研修医合同研修会・懇談会

- ・県内の研修医を対象に、研修医同士の交流を深めることで連帯感の醸成を図り、県内定着を図る
- ・内容・・・外部講師による特別講演、病院毎の近況報告等



【大分県】医師臨床研修マッチング率の推移

病院名	令和6年度			令和5年度			令和4年度			令和3年度			令和2年度			令和元年度			30年度			29年度			28年度			27年度		
	定員	マッチ数	マッチ率	定員	マッチ数	マッチ率	定員	マッチ数	マッチ率	定員	マッチ数	マッチ率	定員	マッチ数	マッチ率	定員	マッチ数	マッチ率												
別府医療センター	9	9	100.0	8	8	100.0	8	8	100.0	8	8	100.0	9	9	100.0	9	9	100.0	9	9	100.0	9	9	100.0	8	8	100.0	8	7	87.5
大分県立病院	14	13	92.9	14	9	64.3	14	14	100.0	14	14	100.0	14	14	100.0	12	12	100.0	12	12	100.0	12	5	41.7	12	9	75.0	12	12	100.0
大分大学医学部附属病院	48	24	50.0	48	18	37.5	48	24	50.0	48	38	79.2	48	43	89.6	48	42	87.5	56	39	69.6	61	34	55.7	61	38	62.3	61	39	63.9
大分岡病院	5	3	60.0	5	3	60.0	5	3	60.0	5	3	60.0	5	5	100.0	5	5	100.0	5	3	60.0	5	4	80.0	5	3	60.0	5	2	40.0
中津市立中津市民病院	6	5	83.3	6	5	83.3	6	5	83.3	5	5	100.0	5	5	100.0	5	4	80.0	5	4	80.0	5	4	80.0	4	4	100.0	4	1	25.0
大分県厚生連鶴見病院	4	4	100.0	4	3	75.0	4	4	100.0	4	4	100.0	4	4	100.0	4	4	100.0	4	4	100.0	4	4	100.0	4	4	100.0	3	3	100.0
大分中村病院	4	1	25.0	4	4	100.0	4	3	75.0	4	4	100.0	5	2	40.0	5	4	80.0	5	1	20.0	5	3	60.0	5	2	40.0	5	1	20.0
大分医療センター	2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0	0	0	#DIV/0!	2	0	0.0	2	1	50.0	2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
大分赤十字病院	5	5	100.0	5	1	20.0	5	5	100.0	5	5	100.0	5	3	60.0	5	5	100.0	5	1	20.0	6	6	100.0	6	6	100.0	6	6	100.0
大分県済生会日田病院				2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0	2	1	50.0	2	1	50.0	2	0	0.0	2	2	100.0	2	1	50.0
新別府病院	4	4	100.0	4	1	25.0	4	4	100.0	4	3	75.0	4	1	25.0	4	0	0.0	4	4	100.0	2	2	100.0	2	1	50.0	2	0	0.0
大分医師会立アルメイダ病院	5	2	40.0	5	1	20.0	5	2	40.0	5	2	40.0	5	2	40.0	4	4	100.0	4	2	50.0	4	4	100.0	4	3	75.0	4	1	25.0
大学病院計	48	24	50.0	48	18	37.5	48	24	50.0	48	38	79.2	48	43	89.6	48	42	87.5	56	39	69.6	61	34	55.7	61	38	62.3	61	39	63.9
臨床研修病院計	58	46	79.3	59	35	59.3	59	48	81.4	58	48	82.8	58	45	77.6	57	48	84.2	57	42	73.7	56	41	73.2	54	42	77.8	53	34	64.2
合計(大分県)	106	70	66.0	107	53	49.5	107	72	67.3	106	86	81.1	106	88	83.0	105	90	85.7	113	81	71.7	117	75	64.1	115	80	69.6	114	73	64.0
全国	10,724	9,062	84.5	10,895	8,968	82.3	10,844	8,995	82.9	10,904	8,958	82.2	11,007	8,869	80.6	11,109	9,042	81.4	11,253	9,202	81.8	11,014	9,023	81.9	11,195	8,906	79.6	11,052	8,687	78.6

R3年度
の取組
※救急科
の追加

【課題】 ※R3時点

- 救急医の10万対医師数は九州で下から2番目
大分県 4.18人
九州平均 4.64人
全国平均 4.34人
- 救急医の専攻希望は九州最下位
1位 福岡42人、8位 大分3人
- 地域偏在
大分、別杵速見、日田玖珠を除く
7救急医療圏域では0~1名
- 過酷な勤務状況
時間外労働の月平均104時間

【対策】

各救急医療圏に救急医を2名以上配置することを目標に、**医師研修資金貸与制度(返還免除付)の対象診療科に「救急科」を追加し、R4~R6の3年間で12名の養成を目指した**

- ・養成数 12人 (不足分10人÷3年≒4人/年)
⇒R7に4名、R8に4名、R9に4名が救急医として地域で従事
- ・貸与額 月15万円×12月=年180万円を貸与(上限3年分)
※専門研修期間を含め4年間従事した場合は返還免除
- ・予算額 R4： 720万円 (4人分)
R5： 1,440万円 (8人分)
R6： 2,160万円 (12人分)

現状
課題

R4~6の貸与者：8名 (R6、4現在で専門研修修了者2名、専門研修1年目2名、2年目2名、3年目2名(産休等で休止中))

- ✓ 当初想定した養成数には、あと新規で4名必要
- ✓ 救命救急センターの人員確保が必要
…中津市民病院の地域救命救急センター化(検討中)等
- ✓ 救急ニーズは増加しているが、救急医は増えてない
- ✓ 現在も過酷な勤務状況が続く
(大分大学救急科は、18名中13人が特例B水準)

▶ **今後も養成が必要**

	H22	H24	H26	H28	H30	R2	R4	R4-H22
福岡県	126	175	151	139	155	161	139	13
佐賀県	14	31	27	27	30	29	29	15
長崎県	19	30	30	34	30	36	38	19
熊本県	35	56	52	65	51	61	51	16
大分県	20	40	25	19	23	29	31	11
宮崎県	10	32	23	25	29	31	31	21
鹿児島県	10	35	23	39	44	51	62	52
沖縄県	43	77	65	70	66	91	74	31
全国	2,267	2,600	3,011	3,244	3,590	3,950	3,913	1,646

(医師統計：救急科従事医師数)

R7年度
以降

6人分(専攻1~3年目2名ずつ/現在の入局ペース)の予算枠を継続

▶ R7：貸与者6人/修了者4人 ⇒ R8：貸与者6人/修了者6人 ⇒ R9：貸与者6人/修了者8人

※インセンティブを活用し専攻医を多く確保することで、医師の負担軽減につながる。
※女性の救急医も増加傾向であり、現在産育休で休止している専攻医も、復帰後に継続できる

効果

- ◆ R10に専門医を10人確保し、各救急医療圏への配置を目指す
- ◆ 救命救急センターの人員の確保により、県の救急体制の充実を図る

▶ **安心して質の高い医療の確保**

医師短時間正規雇用支援事業 事業概要

1 目的

短時間正規雇用を導入する医療機関を支援し、勤務医の過重労働の軽減及び医師の出産・育児、介護と勤務との両立を可能とし、医師の離職防止・復職支援を図る。

2 事業の実施主体

事業の実施主体は、市町村、日本赤十字社、社会福祉法人恩賜財団済生会、厚生農業協同組合連合会、全国社会保険協会連合会、医療法人、その他知事が認める者とする。

3 補助事業の概要

短時間正規雇用を導入するために要する経費（代替医師の確保に要する経費）に対し、予算の定めるところにより補助金を交付する。

※R5年度より、補助対象を男性医師や、介護を理由とする短時間正規雇用にも拡大

4 令和6年度実績

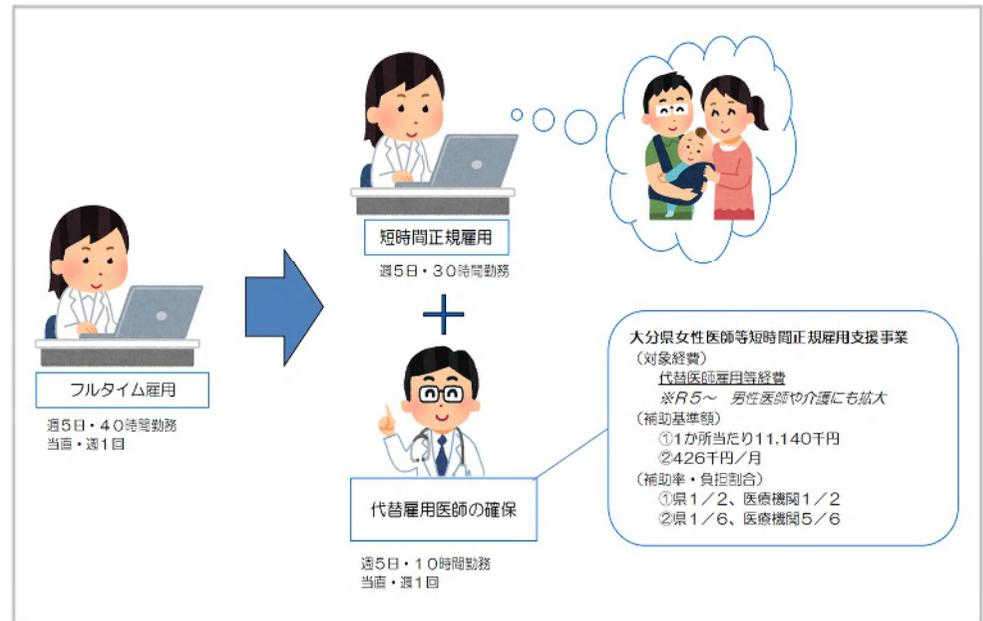
6施設

5 補助額

11,140（千円）×1/2+426（千円）×月数×1/6

短時間正規雇用支援事業

<実施イメージ>



女性医師支援について

(予算額: 2,094千円)

これまでの
県の取組

- 女性医療人キャリア支援センター支援
 - ・「女性医療人キャリア支援センター」の立ち上げ支援(H26~28)
 - ・eラーニングシステムの開発・整備(H29)
 - ・大学の復職支援プログラムの作成(R1)
 - ・県内153医療機関に復帰支援プログラム作成支援(R4~5)
- 大分県女性医師等短時間正規雇用支援事業 (H21~)
 - ・代替医師の雇用経費に対する助成

◆背景／女性医師数の増加◆

- (1)大分県内の女性医師数と割合
H20:451人(15.9%) → R2:662人(20.1%)
- (2)大分大学医学部医学科の女性入学者数と割合
H20:32人(33.7%) → R6:50人(46.3%)

女性医療人キャリア
支援センター

【これまでの女性医療人キャリア支援センターの取組】

- 復職・キャリア継続支援 …キャリアサポートブックの作成、復職支援プログラムの作成支援
- キャリア教育 …医学科4年でのキャリア教育の日を設け、多様なキャリアの提示
- 交流会 …女性医師、女性医師と医学生女子との交流会を実施
- 相談窓口 ○男性医療人の会 ○トップセミナー 等

【課題】

- 女性医師のキャリア継続やキャリアアップ(ライフイベントとのタイミングやバランス)
- 両立支援を受ける女性医師の同僚・上司等への支援や理解がまだ必要
- 医師の働き方改革の面からも、女性医師の離職防止・スムーズな復職は重要課題

R6
以降

大分大学に委託している地域医療支援センターの業務に女性医師対策を追加し、女性医療人キャリア支援センターと連携した実効性のある女性医師対策を県内全域で展開する

- 個別相談支援 …各機関との連携を図り、相談体制の強化及び広く周知を行い、大学以外の女性も相談しやすい体制を作る
- セミナー開催 …県医師会、郡市医師会等と連携し、地域でセミナーを開催する
- 復帰支援プログラムの作成支援(継続) …県内病院に対し復帰支援プログラムの作成を支援
- キャリアサポートブックの作成 等

効果

- 女性医師の出産等に伴う心理的不安を解消し、継続就労やスムーズな復職につなげる
- 市中病院等単独では対応が難しい支援を行う ▶ 県内医療機関の人材の確保(医師不足の解消)

医師充足対策事業の概要(自治医科大学)

1 目的

本県の医師充足状況は、人口対比でみる限り全国中位にあるが、地域的に偏在しており、へき地診療所やへき地医療拠点病院の医師の確保が困難な状況にある。このため医師確保対策として次の事業を実施している。

2 概要

(1) 自治医科大学運営費負担事業 (R7年度負担金 131,200千円)

自治医科大学は、医療に恵まれない地域に勤務する医師を養成することを目的に、昭和47年4月に全都道府県が共同で設置した大学であり、運営費については各都道府県が一律負担している。

① 修学資金貸与と義務年限

貸与金総額 23,000,000円

(入学料、授業料、実験実習費、施設整備費、入学時学業準備費)

義務年限 貸与期間(6年)×1.5倍=9年

(義務年限中の標準的な勤務ローテーション)

貸与期間						勤務義務期間								
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6年貸与を受けた場合						臨床研修(2年) (県立病院)		へき地勤務 (病院)		専門研修		へき地勤務(診療所・病院)		

② 本県卒業生・在学生の状況(令和7年4月予定)

■ 卒業生 106名

義務年限終了者 82名(中途退職・返還者3名を含む)
内、県内定着者 57名(69.5%)

義務年限中の者 24名

■ 在学中の者 15名

③ 派遣・研修の状況(令和7年4月予定)

■ 病院勤務(13名)

国東市民病院 4名(義務年限終了者1名)
杵築市立山香病院 4名(割愛1名)
豊後大野市民病院 3名(割愛1名)
中津市民病院 2名(義務年限終了者1名)

■ 診療所勤務(4名)

姫島村国民健康保険診療所 2名
佐伯市国民健康保険丹賀診療所 1名(義務年限終了者)
日田市立東溪診療所 1名

■ 臨床研修 6名

■ 専門研修 5名

■ 産育休 1名

(2) その他自治医科大学医師等に係る経費

- ・ 自治医科大学卒業医師研修
- ・ 自治医科大学卒業医師派遣に係る連絡調整

おおいた医学生修学サポート事業の概要（大分大学地域枠）

1 目的

医師不足に対応するため、地域医療への貢献を志す県内出身の医学生に対して、修業資金を貸与することで、卒業後の県内定着を促進し、医師不足が顕在化している過疎地域の医師確保を図る。

2 大分県医師修学資金貸与制度の概要

区 分	特別選抜(総合型選抜)地域枠 (H21～)	学士編入学地域枠 (H19～26)
①対象者	県内出身者で、大分大学卒業後、県内医療機関での診療する意欲のある医学生	
②定 員	13名 (H21～5名、H22～10名、H27～13名)	※H19～3名、H27～0名
③貸与対象	入学金+授業料+修学支援金	入学金+授業料+修学支援金
④貸与金額	7,096,800円/1人当たり	10,793,100円/1人当たり
④貸与金額	入学金	282,000円
	授業料	535,800円/年
	修学支援金	50,000円/月
⑤貸与期間	最短 6年	最短 4.5年
⑥返還の免除	貸与を受けた期間の2分の3を義務期間とし、県の指定する医療機関において医師として勤務した場合、全額を免除する。	
	最短 9年(6年×1.5倍)	最短 7年(4.5年×1.5倍)
⑦指定医療機関	大分大学医学部附属病院、大分県立病院、へき地医療拠点病院(旧大分市及び別府市に所在する病院を除く)、市町村立へき地診療所、その他知事が指定する医療機関	
⑧勤務パターン	下記のとおり	
⑨備 考	○H21年度設置枠 5名 →国の緊急医師雇用対策に伴う9年間の暫定措置 ○H22年度設置枠 5名＝地域医療再生基金 →国の経済財政改革の基本方針2009に伴う10年間の暫定措置	※大学の入試制度改正等に伴い、学士編入学地域枠はH26年度で廃止し、H27年度入学者から定員を特別選抜(AO入試)地域枠に付け替え

(標準的な勤務パターン)

貸与期間	勤務義務期間									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
6年貸与を受けた場合	臨床研修(2年) (大学病院)		地域勤務 (入局保留)	後期研修(3年) (大学病院等)					地域勤務(3年) (指定医療機関)	

(特定診療科コース) ※小児科・産婦人科・救急科・整形外科を専攻するものうち希望者

貸与期間	勤務義務期間									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
6年貸与を受けた場合	臨床研修(2年) (大学病院)		地域勤務 (入局保留)	後期研修(4年) (大学病院等)				地域勤務(2年) (県が配置医療機関を指定)		

3 地域枠卒業生・在学生の状況 (R6年4月1日現在)

義務内卒業生	111名	義務明け	10名
在学生	77名	離脱(死亡含)	11名
計	188名	総貸付人数	209名

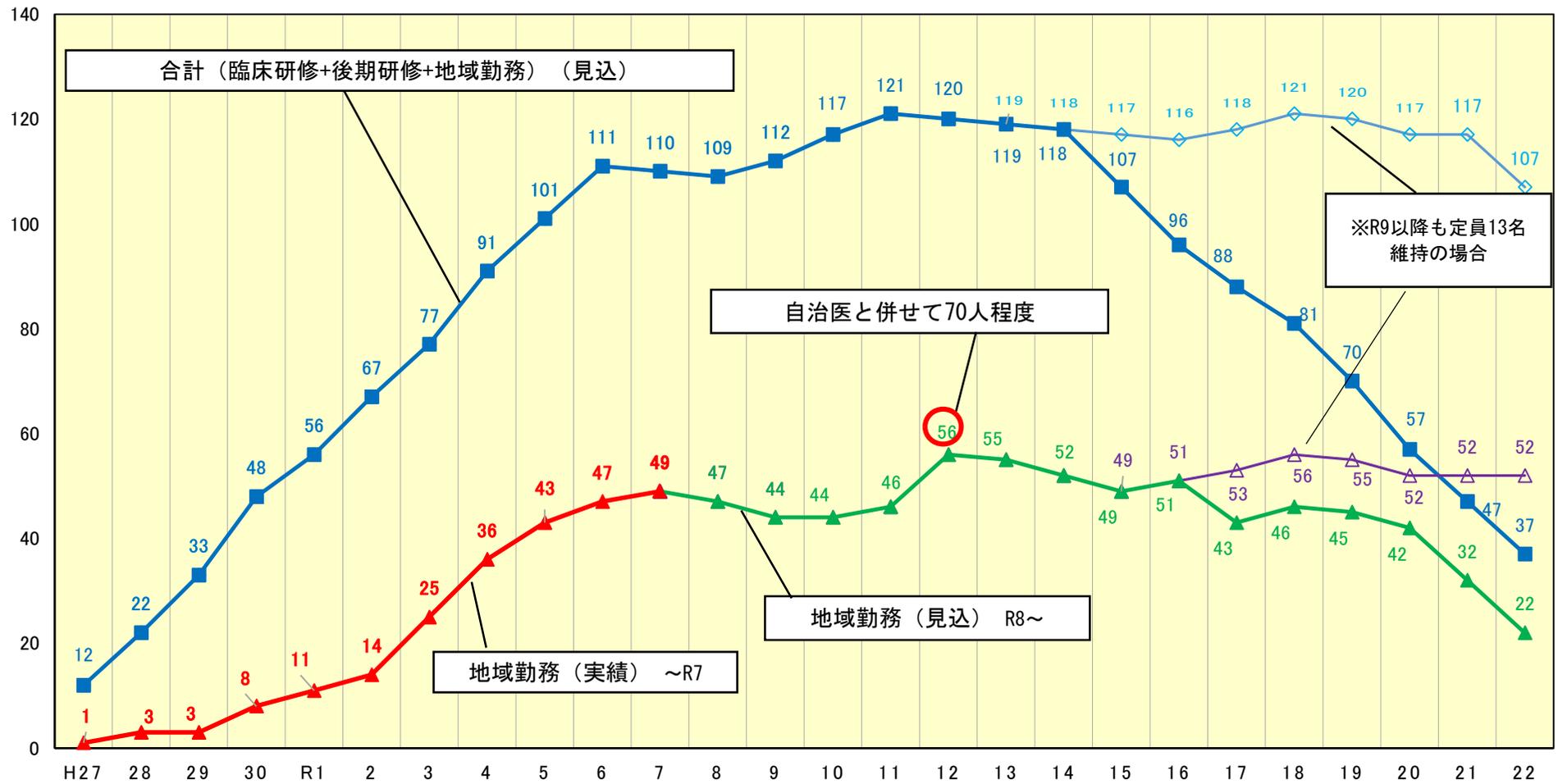
■指定医療機関(地域勤務)一覧

分類	施設名	
へき地医療拠点病院 (旧大分市及び別府市に所在する病院を除く)	公立	国東市民病院
		杵築市立山香病院
		豊後大野市民病院
		中津市民病院
	公的	済生会日田病院
		南海医療センター
	医師会立	宇佐高田医師会病院
		臼杵市医師会立コスモス病院
		津久見市医師会立津久見中央病院
		竹田医師会病院
市町村が設置するへき地診療所	その他	佐賀開病院
		大久保病院
		佐伯中央病院
		長門記念病院
		高田中央病院
		姫島村国民健康保険診療所
		津久見市保戸島診療所
		佐伯市国民健康保険因尾診療所
		佐伯市国民健康保険鶴見診療所
		佐伯市国民健康保険丹賀診療所
		佐伯市国民健康保険大島診療所
		佐伯市国民健康保険大入島診療所
		日田市立上津江診療所
		日田市立東浜診療所
		九重町飯田高原診療所
		中津市国民健康保険山移診療所
		中津市国民健康保険津民診療所
	中津市国民健康保険槻木診療所	

注 地域枠卒業医師の派遣先の調整に支障を来す場合は、二次救急医療を担う病院(大分市・別府市に所在する病院は除く。)を指定医療機関として取り扱うことができるものとする。

地域卒業医師の推移（見込と実績）

R7.4.1時点



合計＝卒後1～9年目の人数（臨床研修2年間+後期研修3年間+地域勤務4年間）

地域勤務（4年間）＝3年目及び7～9年目（卒後4年目以降の医師はキャリア形成プログラムを反映）

令和7年度 大分県専門研修プログラム登録状況一覧 (R7.3現在)

(単位:人)

領域名	内科			救急科	小児科		精神科		外科		産婦人科	
基幹施設名	大分大学	県立病院	大分県済生会日田病院	大分大学	大分大学	県立病院	大分大学	帆秋病院	大分大学	県立病院	大分大学	県立病院
定員数	27	3	3	5	8	3	5	4	12	2	10	2
一次採用数	22	1	0	0	2	0	2	1	6	0	3	0
二次採用数	4	0	2	1	0	0	1	1	1	0	1	0
三次採用数	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合計	31			1	2		5		8		4	

領域名	整形外科						麻酔科		皮膚科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科
基幹施設名	大分大学	大分中村病院	大分整形外科病院	別府医療センター	五反田病院	若宮病院	大分大学	県立病院	大分大学	大分大学	大分大学	大分大学	大分大学	大分大学
定員数	6	2	2	2	3	0	14	1	5	4	2	7	2	5
一次採用数	3	0	0	0	0	0	5	0	4	1	1	1	1	3
二次採用数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	1
三次採用数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5						7		4	1	1	2	1	4

領域名	病理科	臨床検査科	形成外科		リハビリテーション科	総合診療科	
基幹施設名	大分大学	大分大学	県立病院	大分岡病院	大分大学	大分大学	大分健生病院
定員数	1	1	4	2	2	4	2
一次採用数	0	0	1	0	0	0	0
二次採用数	0	0	1	0	0	0	1
三次採用数	0	0	1	1	0	1	0
合計	0	0	4		0	2	

定員合計	155
一次採用合計	57
二次採用合計	19
三次採用合計	8
採用計	82
マッチング率	52.9%

専門研修プログラム採用数の推移(H30～R7)

(単位:人) <参考>

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	H30～R7 合計
1 内科	25	26	23	23	27	23	28	31	206
2 救急科	0	0	2	1	2	4	4	1	14
3 小児科	7	4	2	4	4	4	0	2	27
4 精神科	5	3	0	5	3	5	4	5	30
5 外科	8	4	5	10	7	5	7	8	54
6 産婦人科	2	2	3	5	4	0	0	4	20
7 整形外科	2	5	4	2	5	8	6	5	37
8 麻酔科	1	3	2	3	10	3	4	7	33
9 皮膚科	1	3	4	2	1	3	5	4	23
10 眼科	4	3	2	1	2	1	1	1	15
11 耳鼻咽喉科	1	2	3	0	4	1	2	1	14
12 泌尿器科	2	1	0	1	0	2	3	2	11
13 脳神経外科	1	0	1	0	1	0	1	1	5
14 放射線科	2	1	3	1	2	3	3	4	19
15 病理科	1	1	0	0	0	1	1	0	4
16 臨床検査科	0	0	0	0	0	1	0	0	1
17 形成外科	0	1	2	3	4	5	2	4	21
18 リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19 総合診療科	2	2	2	2	4	1	1	2	16
合計	64	61	58	63	80	70	72	82	468